

ハウス栽培マンゴーにおけるチャノキイロアザミウマの発生

後藤 弘・阿万暢彦 (宮崎県総合農業試験場)

Hiroshi Goto and Nobuhiko AMAN:

Occurrence of the Chillie thrips, *Scirtothrips dorsalis*, on mango cultured in greenhouse

ハウス栽培マンゴーは、宮崎県において現在約20ha栽培されており、宮崎県の特産果樹の1つとなっている。

著者らは、これまでに1月から20℃以上に加温を開始し、5月下旬から収穫が始まる栽培体系(以下、早期型栽培)のハウスマンゴーにおいて、アザミウマ類の発生消長および種類を調査した。その結果、アザミウマ類の種類によって発生時期が異なるが、主な発生種はヒラズハナアザミウマおよびチャノキイロアザミウマであった。この内、チャノキイロアザミウマは夏秋梢に集中して寄生し被害が認められたことから、本種はマンゴー栽培上注意を要する種類と思われた。¹⁾

一方、宮崎県のマンゴーの栽培は、2月から20℃以上に加温し、収穫が6月以降となる体系(以下、後期型栽培)が主となっている。そこで、本試験では後期型栽培のハウスマンゴーで、チャノキイロアザミウマの発生状況および寄生状況について調査を行った。

1. 試験方法

調査ほ場は宮崎県佐土原町の(社)日本植物防疫協会宮崎試験農場のハウス栽培マンゴーとした。栽培品種はアーウィンの7年生、ビニルハウス面積は約1.2aであった。耕種概要は、20℃以上の加温開始時期を2月中旬とし、満開が2月下旬、収穫開始が6月中旬であった。

調査期間は1999年2月1日から2000年7月31日で、チャノキイロアザミウマの誘殺消長およびマンゴーの植物体上における寄生状況と寄生部位を調査した。誘殺消長の調査はハウス内に黄色粘着トラップ(ホリバー黄色)を地上約1.8mの高さに3カ所設置して、1週間おきに新しいものと交換し、回収した粘着トラップに誘殺されたチャノキイロアザミウマの成虫数を計数した。寄生状況の調査は、1999年の収穫直前から収穫時期および剪定後の夏秋梢の伸長する時期、2000年の幼果期から果実肥大期の初期に行った。調査対象樹は無作為に選んだ5樹とし、前年の夏秋梢(旧葉)については1樹当たり50葉、新梢については1樹当たり10梢、果実については1樹当たり20果を選び、チャノキイロアザミウマの寄生虫数を計数した。

2. 結果および考察

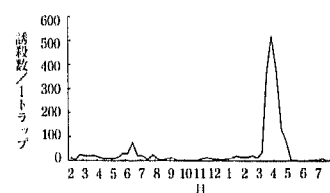
チャノキイロアザミウマの黄色粘着トラップによる旬別の誘殺消長を第1図に示した。誘殺のピークは調査前半では収穫直前から収穫開始時期の6月中下旬、後半では果実肥大期に当たる3月中旬~4月下旬にみられた。この内、前半のピークは収穫時期の防除困難な時期につながることから果実への影響が憂慮されたが、収穫時期の部位別寄生状況調査では、マンゴー果実への寄生は全くみられず、新しく伸長した梢への寄生のみ認められた(第2図)。従って、収穫時期のチャノキイロアザミウマの防除は特に行う必要はなく、新梢を除去することで発

生量を抑えることができると考えられた。なお、調査後半の収穫時期に当たる6月には前半の同時期ような誘殺のピークはみられなかったが、これは耕種的な対策として新梢を除去したことが要因として考えられた。また、調査後半の果実肥大期の誘殺ピークについては、同時期の幼果上の寄生状況を調査したところ、成虫で1果当たり約0.5頭の寄生が認められた(第3図)。被害としては、産卵痕による果実表面の凹凸、果皮の褐変あるいは黒変等が観察された。今後、この時期における防除手段について検討が必要である。

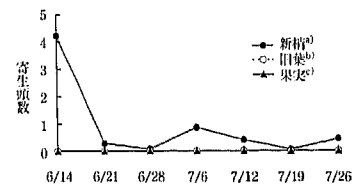
一方、調査中期の8月1日から1月31日までの誘殺数は少なく明瞭な発生ピークはみられなかったが、これまでの調査例から、前期型栽培のマンゴーでは、チャノキイロアザミウマは夏秋梢の伸長する8月から9月にかけて多く飛来し、加害することを確認している。¹⁾このことから同様に新梢の寄生状況を調査したところ、本虫は、剪定後に発生した柔らかな夏梢への寄生が認められ、硬化すると寄生が認められなくなった。秋梢の伸長時にも同様の傾向がみられ、これらの期間の被害葉率はかなり高く約50%に達した。マンゴーでは、夏秋梢が翌年の結果母枝となり、その良し悪しが収量に影響することから、夏秋梢の伸長する時期のスリップス防除は重要であると考えられた。

引用文献

- 1) 後藤 弘・阿万暢彦：九農研 62, 86, 2000.

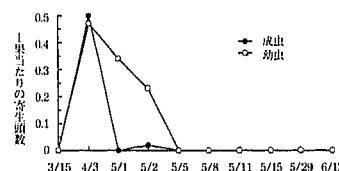


第1図 粘着トラップによるチャノキイロアザミウマ誘殺数



第2図 収穫時期におけるチャノキイロアザミウマ寄生状況

注) a) 1梢当たりの寄生頭数 b) 1葉当たりの寄生頭数
c) 1果当たりの寄生頭数



第3図 幼果期におけるチャノキイロアザミウマ寄生状況